

附属やまぐち学園だより

やまぐち学園教育目標:発見し、はぐくみ、かたちにする学びの広場
めざす人間像:よりよい未来を共に創り出す人間

第1号 2026年7月17日(金)

山口大学教育学部附属幼稚園

〒753-0070 山口市白石三丁目1番2号 TEL 083-933-5960

山口大学教育学部附属山口小学校

〒753-0070 山口市白石三丁目1番1号 TEL 083-933-5950

山口大学教育学部附属山口中学校

〒753-0070 山口市白石一丁目9番1号 TEL 083-922-2824

デジタル時代に学びを繋ぐ ～自ら未来を創り出す子どもたち～

山口大学教育学部 学部長 中田 充

本格的な真夏が到来し、ひまわりが大輪を咲かせる季節となりました。日頃よりの本学園の教育活動に対する温かいご支援に、心より御礼申し上げます。今年度も「附属やまぐち学園だより」を通じて、保護者や地域の皆様に子どもたちの生き生きとした成長の歩みを共有できることを、大変意義深く感じております。

生成AIを含むICTが急速に普及する現代、教育現場の風景も大きく変わりつつあります。予測困難な時代だからこそ、単にデジタル端末を使いこなす知識にとどまらず、溢れる情報から課題を「発見」し、仲間と協働して「はぐくみ」、自分なりの答えとして「かたちにする」力が求められています。

本号に掲載されている、小学生とのダンスの交流を自ら働きかけた幼稚園児の姿。全校が心を一つに熱狂した小学校の運動会。そして中学校訪問で目にした、互いの知を響かせ合う協働的な学びの風景。これらは、主体的に他者と繋がり、自らの学びを深めていく確かな歩みそのものです。本学園の一貫教育の場こそが、激動の時代において「よりよい未来を共に創り出す人間」の根幹を育む、豊かな土壌であると確信しております。

間もなく子どもたちが心待ちにする夏休みです。学校園を飛び出し、広い世界へと学びを繋げる絶好の機会となるでしょう。この暑さに負けず、子どもたちが充実した夏を過ごせるよう、今後とも皆様と共に温かく育んでまいりたいと存じます。変わらぬご支援をお願い申し上げます。

【附属幼稚園】

今年度は園舎の改修工事に伴い、年長組は2学期から小学校の教室を借りて過ごす予定です。そこで、小学校が安心できる場所になるようにという思いから、5月に運動会の練習を見に行きました。楽しそうな1・2年生のダンスを見た年長の子どもたちから「やってみたい!」という声が上がりました。昼休みに、その思いを知った2年生が「教えてあげるよ」と分かりやすく踊りを教えてくれました。最初は遠くから見ていた年長さんもありましたが、繰り返し楽しむ中で憧れの気持ちをもって自分のタイミングで加わり、徐々に自信をつけて笑顔で踊る姿へと変わっていきました。

ある日、年長の子どもたちから、「今度は私たちの踊りも見てもらいたい」「一緒に踊りたい」との声があがりました。緊張しながらも自ら小学校の教室へ行き、1・2年生に「一緒にダンス踊り合っきたい。遊戯室に来てください」と自分の言葉で誘い、次の交流へとつながっていきました。

実は今回ダンスを教えてくれた2年生は、2年前に幼稚園児だった頃、当時の1年生に同じように踊りを教わっていた子どもたちです。憧れや優しくしてもらった経験が受け継がれ、今度は教える側となって新たなつながりを生み出していました。好きなことや興味を介して自ら人との関わりを広げ、主体性を発揮していく子どもたちの姿に、幼小が隣接する本学園ならではの「つながり」と「成長」のサイクルを感じています。



【附属山口小学校】

5月16日に運動会を行いました。1・2年生は、かわいらしい「ズートピア」のダンスから一転、笛の合図とともに中央のカゴを狙って玉を入れる玉入れに挑戦しました。3・4年生は、元気いっぱいに旗を振る息の合った演技と、仲間と力を合わせた白熱の綱引きを行いました。そして、5・6年生は、「未来への挑戦」と「一致団結」をテーマに、「UFO」のダンスを表現しました。大玉運びでも高学年らしい力強い姿を見せてくれました。それぞれの学年が輝き、全校児童が1つとなって盛り上がる素晴らしい運動会となりました。

1年生の国語科「つばみ」の学習では、附属幼稚園の年長さんとの交流がありました。1年生が授業で学んだことを生かし、年長さんにもなじみのあるヒマワリや桜などで手作りの「つばみクイズ」を作成しました。当日は、自己紹介やミニゲームで親睦を深めました。緊張している年長さんに「大丈夫だよ。」と優しく寄り添ったり、クイズでヒントを出して正解の喜びを味わわせたりと、相手を思いやる頼もしい1年生の姿がたくさん見られました。

6月10日には、やまぐち学園の全教職員に向けて、社会科「わたしたちの山口市」の授業（3年生）を公開しました。山口市の特徴について、これまでの学びをいかして話し合う姿が見られました。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核とされる「見方・考え方」を自在に使いこなせる姿に高めることや、「見方・考え方」を中心とした単元配列の工夫を通して、自ら学びをつなぐことのできる子どもをやまぐち学園の全教職員で育てていきたいと考えています。

【附属山口中学校】

附属山口中学校では、中学校卒業後の将来を見据え、幼稚園から中学校までの12年間の学びを自らつなぐことができる子どもの育成を目指しています。その一環として、自ら問いを見出し、他者と協働して新たな価値を創造する「探究的な学習」の研究に取り組んでいます。

7月8日（水）には、「イオンとは何か」という問いをテーマにした理科の公開授業を行いました。この授業には、やまぐち学園の幼稚園・小学校・中学校の先生が集まり、参観しました。授業の中では、ものが「とける」という現象に疑問を持ち、既習事項や実生活を基に仮説を立てたり、粒子モデルを用いて考えを可視化したりしながら、自分の考えをクラスメイトに熱心に説明するなど、対話を通して問いに挑む探究の姿が見られました。この探究の土台には、幼稚園でのシャボン玉遊びや色水遊びを通して得た「とける」感覚や、小学校5年生での「もののとけ方」の学習があり、12年間で培われた「科学的な見方・考え方」が中学校での深い学びを支えていると感じました。

授業後には、幼稚園・小学校・中学校の先生が交流しながら、子どもたちの学びをどのようにみとり、つなげていくべきか、協議を行いました。今後も幼小中一貫教育の良さを生かしながら、自ら問いを見出し、探究しようとする生徒を育てられるよう、「もっと知りたい」「もっと考えたい」と思えるようなワクワクする授業を追求し続けていきます。

